

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年 3月 25日
函館市立 弥生小学校

1 本年度の重点教育目標

『“心のつながり”を広げ、生き生きと活動する子』
キャッチフレーズ「やりとげた よろこび いっぱい 弥生小」

2 本年度の取組の重点

- ・児童の安心・安全、保護者の安心を最優先とする学校運営
- ・本校の特色を生かした創意ある教育活動の推進
- ・保護者、地域とのつながりを重視した地域とともにある学校の創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方向性の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を育む教育の推進	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、創意ある教育課程を編成、実施することができたか。	a	「弥生カリキュラム」に沿って弥生の子どもの力を伸ばす授業改善に努める。	A	A	・「主体的・対話的で深い学び」をかがけているのは素晴らしい。 ・コミュニケーション能力の育成をどう図るか、今後の大きな課題でしょう。
	基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫改善を推進することができたか。	a	「弥生スタンダード」を基本に少人数指導、個に応じた指導の充実を図り、学力の定着を目指した。	A	A	
② 豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	教育活動全般を通じて、授業や各種活動等の工夫・改善を全体で協議し判断力実践力の向上に努める。	A	A	
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共性、社会性を育むことができたか。	b	・学校として共通理解を深め学級指導、委員会活動などを通して指導、改善に努める。	A	A	・昨年、学校でお話しさせていただいた時のクラスの子どもたちは、街中で会った時、いつも声をかけてくれてとても嬉しく思っています。
③ 健やかな体を育む教育の推進	望ましい生活習慣の定着や健康や体力向上を図る活動を推進することができたか。	b	体力向上の取組の充実を学校課題ととらえ、「弥生カリキュラム」をもとに各教科、学級指導で指導に努める。	A	A	
	自らの命を守り、健康な生活を送る力を身に付けさせることができたか。	a	危機管理の重要性を全職員で共有し、継続的な取組を通して子どもたちに生命尊重の意識を身につけさせる。	A	A	
④ 学校における指導体制等の充実	学校教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって子どもたちの教育に携わっていたか。	a	職員の協働意識が定着してきており目標や課題を共有し、協働で取り組むことができた。	A	A	・これからの学校改善のポイントは同僚性の構築だと考えます。
	教職員は心身ともに健康で意欲的に子どもたちの指導にあたっているか。	a	業務の精選や校務のスリム化を図るなど、子どもに向き合う時間の確保に努めることができた。	A	A	
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	青柳ネットを中心に地域の人材等をより積極的に効果的に活用し、教育活動の質の向上に努める。	A	A	・学校がある西部地区の魅力について地域と連携しながら学んでいることを高く評価します。
	育てたい子ども像を、学校・家庭・地域が共有し、共に子どもたちの教育に携わっていたか。	a	学校だよりや安心メール等を活用して保護者や地域に情報を発信し、家庭や地域とともに、学校教育を推進することができた。	A	A	・早く普段の教育活動が取り組めるといいですね。地域学校協働活動の成果を共有したいですね。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。